報　告

COVID-19の影響下でオンラインを利用した公衆衛生看護学実習の成果と課題

磯村聰子，守田孝恵，斎藤美矢子，村上祐里香

山口大学大学院医学系研究科保健学専攻　地域・老年看護学講座　　宇部市南小串１丁目１－１（〒755-8505）

Key words：公衆衛生看護学実習，学習成果，COVID-19，保健師活動，臨地実習

和文抄録

COVID-19の影響下でオンラインを利用した公衆衛生看護学実習の成果および課題を明らかにすることを研究目的とし，2018年～2020年に公衆衛生看護学実習を履修したA大学４年次の学生を対象に無記名自記式調査を実施した．調査項目は，保健師就職希望等の基本属性，保健師活動への印象，公衆衛生看護学実習に対する学習意欲，学習目標項目で構成した．３週間の実習をオンラインで実施もしくは臨地実習１週間，オンライン実習を２週間実施した2020年とそれ以前の実習を比較した．オンライン実習では教員が，公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説して教授した．有効回答217において，公衆衛生看護学実習に対する学習意欲９項目中「公衆衛生看護学実習で保健師から十分関わってもらえた」という主観は，2020年は2018年・2019年に比較して有意に低かった．2020年の学習到達得点上位には，学習目標「１．公衆衛生看護活動のプロセス」「２．保健所と市町村の役割と機能」の項目が複数含まれた．オンライン実習や課題学習などにおいて，地域の概況の把握，地域診断を含めた公衆衛生看護活動を展開図に記述させること，保健所と市町村の役割機能を学ぶことは一定の成果が示唆された．しかし，2018年，2019年は，53項目中94.3％の項目で学習到達度が８割以上であったのに比較して，2020年は32.1％にとどまった．また学習到達度が６割未満であったのは2018年，2019年は０項目であったが2020年は15.1％あった．2020年に学習到達度が低かった，家庭訪問，保健事業及び保健活動，健康相談・健康教育，地域組織・グループ育成の技術については，卒後に公衆衛生看護実践力として獲得していけるよう支援する必要がある．この実践力の向上のために，看護基礎教育と卒後教育の有機的な連携のもと，保健師新任期教育の体制のあり方を確立していくことが今後の課題である．

令和３年10月13日受理

Ⅰ．緒　言

看護学基礎教育の重要な位置付けである臨地実習は，知識・技術を看護実践の場面で適用し，看護の理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場であり，看護教育に欠かせない教育内容である．A大学における公衆衛生看護学実習は，保健所や市町村における保健活動を通して，地域住民の健康づくりとQOLの向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法，保健師の役割と機能を学習することを実習目標としている．これまで，実習の学習目標53項目の学習到達度の平均は９割を超え，実習前の低得点者も高得点者と同様に教育効果を上げる実習プログラムの学習成果[1]を報告した．

しかし2020年は新型コロナウイルス感染症（以下，COVID-19）の影響下にあり，各養成校においては，実習施設，時期，実習内容の変更[2, 3]等などを余儀なくされ，看護師等養成所においては，オンラインや課題を活用した学内実習の報告[4, 5]も見られてい

る．厚生労働省医政局看護課が発出した，COVID-19の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取り扱いについての通知[6]では，保健師養成所の公衆衛生看護学実習について，保健所及び市町村での実習時間や継続した指導の時間が短縮された場合は，地区診断等を活用し，地域で生活している人々に対する理解を深めた上で，健康危機管理に関する学修の観点から，COVID-19に関連する活動を実習時間に含めて差し支えないこと，こうした活動を活用した学習についてはその目的を明確にし，実習計画に位置付けること，加えて活動の前後の事前学習及び振り返りを充分に実施すること，とされている．

2020年はA大学においても，COVID-19拡大防止に係る方針を受け，実習内容の方法を変更して実施することとなった．本研究では，COVID-19の影響下でオンラインを利用した実習の成果および課題を明らかにすることを研究目的とした．

Ⅱ．方　法

１．公衆衛生看護学実習の概要

A大学の公衆衛生看護学実習は，「あらゆる健康レベルにある地域住民の健康づくりとQOLの向上をめざし，地域住民の組織的な努力や関係者・機関との協働を通して，健康課題を解決・改善するために展開される公衆衛生看護活動について考察する」を実習目的とし，４年次前期に実施する．各実習施設２～６名のグループに分かれ，A県内７保健所および16～17の市町村健康増進部門で保健所１週間，市町村２週間，計３週間の実習を行う．なお，３週間のうち，保健所の実習から開始する学生と，市町村の実習から開始する学生がいる．学生は，保健所や市町村の役割を考察しながら，保健事業や疾病対策の実際を理解し，保健事業への参加や会議への参加を通して，保健師と他機関や住民組織等との連携の実際を学び，公衆衛生看護活動を保健師活動の実際から理解することを目指している．

2020年度の実習については，臨地実習の実施についてA県健康増進部門へ相談の上，検討した結果，５月の臨地実習は中止となり，３週間の実習をオンラインで実施することとなった（表１）．６月・７月の臨地実習は１週間に短縮して実施し，２週間は，オンライン実習を実施した（表２）．オンライン実習の内容として，教員が地域包括ケアシステム，健康危機管理，対象別公衆衛生看護活動における対人支援等，公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説して教授した．またオンライン実習課題「新型コロナウイルス感染症について一般住民を対象とした健康教育（啓発）」「２．接触者への面接調査・健康調査の場面（人権への配慮，不安を抱える対象との信頼関係構築，接触者の範囲や感染源・感染経路の把握のための情報収集なども含める）」とし，学生は，個々が配置されている自治体のデータを参考に保健師活動を地域診断をもとにPDCAで説明することとした．また，保健所の精神・感染症対策担当保健師による「保健所における新型コロナウイルス感染症の対応」，３名の市町村保健師による「市町村の保健活動」の説明を聞き，学生からの質疑応答により学びを深めた．また，新任期保健師３名と学生がオンラインで座談会を行い，COVID-19の影響下で着任した体験で感じたこと，保健師の就職を選択した際の体験などディスカッションを通して共有した．また，臨地実習における実習計画を当該施設へ行く学生だけでなく，同クールの学生間で共有し，保健活動，事業のイメージを具体化するとともに，保健所，市町村の役割機能を明確化できるよう準備性を高めた．オンライン実習時間は臨地の実習時間と同様とした．

臨地実習については，本来であれば，学生は保健所と市町村双方の実習を行うが，実習期間の短縮に伴い，学生は３週目に配置されていた保健所又は市町村いずれかの施設において，１週間の実習に参加した．臨地実習開始２週間前以降の健康観察表の提出など学生個人の感染対策を徹底した上で，各自治体の実施する感染症対策に準拠して実施した．保健所の臨地実習では講義，事業への参加を通して，市町・多機関との連携を含む，保健所の広域的，専門的な役割を理解することが出来た．また難病，結核，精神疾患を抱えた事例への支援経過と関係機関との連携を学習した．市町村での臨地実習では，母子・成人・高齢者を対象とした家庭訪問や健康相談，健康教育，健康診査，グループ育成等に参加し，保健師の実践を見て考察した．また地域包括ケアシステム構築のための保健・医療・福祉・介護等の関係者や関係機関，住民組織，ボランティア等との連携や協働の実際を学んだ．

臨地実習から戻った後の学内実習では，学生の臨地実習における学びの振り返り，および体験を共有することに重点を置き，グループワークを実施し，個人の学びをグループで，またグループの学びを同クールの学生全体で統合した．これらを通して，地域の健康課題を解決・改善するために展開される公衆衛生看護活動についての理解を深めた．地域診断に基づくPDCAサイクルについては，住民の声から捉えた地域の健康課題・地域診断を踏まえ，活動計画を立案，実践し評価するプロセスを保健師活動の展開図を用いて，臨地実習での毎日のカンファレンスと学内実習において，繰り返し思考し，学習を深めた．

表1　オンラインで実施した実習スケジュール

第1週-1日目	第1週-2日目	第1週-3日目	第1週-4日目
オンライン実習 ・事前学習，地域の概況のレポート課題発表 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説	オンライン実習 ・事前学習，地域の概況のレポート課題発表 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説	オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図の進捗共有	オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図の進捗共有
第2週-1日目	第2週-2日目	第2週-3日目	第2週-4日目
オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図発表，質疑応答	オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図発表，質疑応答	オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図発表，質疑応答	オンライン実習 ・公衆衛生看護活動の実際を実践的に解説 ・オンライン実習課題，2つのPDCAの展開図発表，質疑応答
第3週-1日目	第3週-2日目	第3週-3日目	第3週-4日目
オンライン実習 ・学校保健活動（養護教諭） ・感染対策（保健所保健師） ・新任期保健師との懇談（保健所保健師）	オンライン実習 ・市町村の保健活動・感染症予防活動（市町村保健師）	オンライン実習 ・市町村の保健活動，地域保健と学校保健との連携（市町村保健師，養護教諭） ・県の保健師活動（県統括保健師）	オンライン実習 ・市町村の保健活動（市町村保健師） ・産業保健活動（産業保健師）

表2　オンラインと対面を併用した実習スケジュール

第1週-1日目	第1週-2日目	第1週-3日目	第1週-4日目
オンライン実習 ・実習スケジュールの説明 ・実習のすすめ方　実習方法 ・事前課題（感染対策，学びたいこと） ・感染症対策 ・交通手段・宿泊場所・連絡先他	オンライン実習 ・実習全体に関すること ・実習期間中の連絡 ・実習中の服装，身だしなみ，必要物品他	オンライン実習 ・学内実習について ・学内実習の提出物説明	オンライン実習 ・DVD（産業保健）
第2週-1日目	第2週-2日目	第2週-3日目	第2週-4日目
	オンライン実習 ・事前学習について ・記録物について ・DVD（感染症対策）	オンライン実習 ・実習計画書，注意事項の確認 ・DVD(母子保健)	学内実習（対面） 臨地実習オリエンテーション ・実習カンファレンスの仕方 ・実習記録について ・教員の指導体制 ・注意事項，感染症対策他 ・物品貸出，実習施設資料配布
第3週-1日目	第3週-2日目	第3週-3日目	第3週-4日目
臨地実習	臨地実習	臨地実習	学内実習（対面）

２．調査方法と対象者

2018年～2020年に公衆衛生看護学実習を履修したA大学４年次の学生を対象に，2018年５月～７月，2019年５月～７月，2020年５月～７月に無記名自記式調査を実施した．

３．調査項目

調査項目は，基本属性，保健師活動への印象，公衆衛生看護学実習に対する学習意欲，学習目標で構成した．基本属性は，数年後の保健師就職希望，長期的な保健師就職希望，保健師就職を希望する領域と保健師就職を希望したタイミング，卒業直後の臨床看護の経験希望，これまでの保健師との接点の有無で構成した．保健師活動への印象は，保健師活動はイメージしにくいと思う，保健師活動に魅力を感じる，保健師はやりがいのある仕事だと思う，保健師活動を最もイメージできる時期の４項目とした．公衆衛生看護学実習に対する学習意欲は，長谷川[7]が述べた，学習モチベーションに影響する「楽しみ」「目標」「有用性」「ポジティブな体験」「外的要素」「期待」「努力」「学習の手助け」等11要素を参考に９項目を作成した．項目作成のプロセスでは，公衆衛生看護学領域の専門家と検討を重ね，内容的妥当性の確保に努めた．公衆衛生看護学実習の学習目標は，「保健師の役割と機能」「保健師に求められる実践能力」[8]から作成された「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」[9]を参考に，A大学実習担当者で検討し，「公衆衛生活動の展開プロセス」「保健所と市町村の役割と機能」「保健事業や疾病対策の実際」「公衆衛生活動」「看護学の各分野の理論の統合と公衆衛生学の実践」の５つを構成要素とする53項目で構成した．学習目標に対し，１点：できない，２点：知識としてわかる，３点：学内演習で実施できる，４点：指導の下で実施できる，５点：自立してできる，の５件法で回答を求めた．

４．分析方法

項目毎に記述統計を算出した．次に，公衆衛生看護学実習に対する学習意欲に2018年2019年と2020年の差をχ^2検定にて比較した．さらに，学習目標53項目の2018年2019年と2020年の比較をｔ検定にて行い，学習目標平均値の上位10位，下位10位を抽出した．また学習目標毎に，４点：指導の下で実施できる，と５点：自立してできると回答した割合を算出し，学習到達度とした．学習到達度が８割未満の項目，６割未満の項目を抽出し，オンライン実習，課題学習等で代替可能な内容，臨地実習でこそ学べる内容について研究者間で検討した．分析にはSPSS ver.24.0 for Windowsを用い，有意水準を５％未満とした．

５．倫理的配慮

研究対象者に対し実習終了後に，調査は無記名であること，自由意志による参加であり，研究への参加あるいは辞退が学生の成績に影響しないこと，研究成果の公表について，書面および口頭で説明した．調査紙の提出により，研究に同意したものと判断した．本研究は山口大学大学院医学系研究科保健学専攻医学系研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（管理番号506）．

Ⅲ．結　果

１．対象の基本属性（表３）

238配布し，回収した217を有効回答とした（回収率91.2％）．対象の保健師の就職希望については，卒後数年後は20％程度，時期は未定だがいつかなりたい者が75％程度，卒後は臨床看護の経験を積みたい者が約85％と，2018年，2019年と2020年で同程度であった．これまでの生活における保健師との接点についてもあまりなかった，全くなかった者を合わせて，2018年，2019年と2020年ともに，９割程度であった．

２．保健師活動への印象（表４）

「保健師活動はイメージしにくいと思う」に対して，非常にそう思う，まあそう思う，を合わせた割合が，2018年・2019年は65％であったが，2020年は45.5％であった．「保健師活動を最もイメージできる時期」については，2018年・2019年では，実習１週目12.2％，２週目27.3％，３週目59.0％と徐々に上昇したが，2020年は，実習１週目10.4％，２週目7.8％，３週目80.5％と，３週目に大きな上昇を認めた．「保健師活動に魅力を感じる」「保健師はやりがいのある仕事だと思う」については，2018年・2019年と2020年の回答割合が同程度であった．

３．公衆衛生看護学実習に対する学習意欲（表５）

公衆衛生看護学実習に対する学習意欲９項目中，８項目においては，2018年・2019年と2020年の有意差は認めなかった．ただし，「公衆衛生看護学実習

で保健師から十分関わってもらえた」の項目については，2020年は，2018年・2019年に比較して有意に低かった（$P<0.001$）．

４．学習目標項目の到達状況（表６）

2018年・2019年と2020年の学習到達得点平均値の差の検討の結果，53項目中32項目で2020年が有意に低くなった．また2018年，2019年の学習到達度の上位10位は高い順に，「１．１）⑥地域の健康課題と結び付けて，保健師活動のPDCAサイクルを展開図に記入する」「３．２）②参加した各保健事業及び保健活動の実施内容について説明する」「３．２）③参加した各保健事業及び保健活動の目的・目標をふまえて，評価の視点を説明する」「４．２）①地域組織・グループ活動の中で住民の主体性を引き出す保健師の関わりや支援について説明する」「３．２）①参加した各保健事業及び保健活動の目的・目標を説明する」「４．家庭訪問１）④家庭訪問のための交通手段や訪問時間の設定，服装の選択をする」「４．家庭訪問２）②家庭訪問の目的を説明する」「４．地域組織・グループ育成１）①参加した地域組織・グループ活動の目的を説明する」「２．１）①保健所と市町村のそれぞれの組織を説明する」

表３　対象者の基本属性

質問項目	年	はい　n(%)	いいえ　n(%)	合計　n
数年後に保健師として就職したい	2018年・2019年	28（20.3%）	110（79.7%）	138
	2020年	17（22.1%）	60（77.9%）	77
いつか機会があったら保健師になりたい	2018年・2019年	103（75.7%）	33（24.3%）	136
	2020年	57（74.0%）	20（26.0%）	77
卒業後，臨床看護で経験を積みたい	2018年・2019年	117（86.7%）	18（13.3%）	135
	2020年	65（84.4%）	12（15.6%）	77
どの領域で就職したい（複数回答）※	2018年・2019年	行政/自治体：　79　産業/事業所：31 学校（小中学校）：26　医療機関：　16		
	2020年	行政/自治体：44　産業/事業所：21 学校（小中学校）：17　医療機関：9　その他：1		
どの時点でそう思ったか	2018年・2019年	入学時：16（15.8%）　2年次：　4（4.0%） 3年次：21（20.8%）　実習後：60（59.4%）		101
	2020年	入学時：10（17.5%）　2年次：3（5.3%） 3年次：19（33.3%）　実習後：25（43.9%）		57
これまでの生活で保健師との接点があった	2018年・2019年	度々あった：　3（2.2%） 時々あった：　8（5.9%） あまりなかった：47（34.8%） 全くなかった：　77（57.0%）		135
	2020年	度々あった：　4（5.2%） 時々あった：　5（6.5%） あまりなかった：28（36.4%） 全くなかった：　40（51.9%）		77

※「数年後に保健師として就職したい」「いつか機会があったら保健師になりたい」で「はい」と回答した者に質問
無回答を除く

表４　保健師活動への印象

印象	年	非常にそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
保健師活動はイメージしにくいと思う	2018年・2019年	26（18.7%）	64（46.0%）	40（28.8%）	9（6.5%）
	2020年	8（10.4%）	27（35.1%）	27（35.1%）	15（19.5%）
保健師活動に魅力を感じる	2018年・2019年	45（32.4%）	78（56.1%）	15（10.8%）	1（0.7%）
	2020年	28（36.4%）	42（54.5%）	7（9.1%）	0（0.0%）
保健師はやりがいのある仕事だと思う	2018年・2019年	61（44.2%）	67（48.6%）	10（7.2%）	0（0.0%）
	2020年	45（58.4%）	30（39.0%）	2（2.6%）	0（0.0%）
保健師活動を最もイメージできる時期	2018年・2019年	事前学習：　2（1.4%）　実習1週目：17（12.2%） 実習2週目：38（27.3%）　実習3週目：82（59.0%）			
	2020年	事前学習：1（1.3%）　実習1週目：8（10.4%） 実習2週目：6（7.8%）　実習3週目：62（80.5%）			

無回答を除く

「２．１）②保健所と市町村の役割と機能について説明する」「４．家庭訪問３）②日常生活の場における保健師の支援方法を理解する」「４．家庭訪問４）①家庭訪問記録用紙（様式３・４）に的確に記載する」「４．健康相談・健康教育１）①健康相談及び健康教育の法的根拠を説明する」「４．健康相談・健康教育１）②参加した健康相談・健康教育の目的，対象，内容（相談・教育内容，担当者の職種と人数，会場，配布資料の活用，年間実施回数，予算など）を説明する」「４．地域組織・グループ育成２）②地域組織・グループ活動の中での保健師と他の専門職との関わりについて説明する」であった．

下位10位は低い順に「５．２）①保健師が行う看護研究の実際を理解する」「３．１）⑤参加した各保健事業及び保健活動を通じて，ソーシャルキャピタルの醸成やその核となる人材の育成について説明する」「５．２）②公衆衛生看護学の発展や保健師活動の質の向上を目的として，看護研究と保健師活動のつながりを説明する」「１．１）⑤地域住民の健康に関する情報を経時的に集積しアセスメントする」「３．④健康危機（感染症・虐待・災害等）への管理体制や予防活動を説明する」「４．家庭訪問３）③関係機関との連携の方法や社会資源の活用の方法について説明する」「４．家庭訪問３）④家庭訪問した事例と保健施策の関係を説明する」「４．家庭訪問２）⑤訪問計画を立てる」「３．１）①母子保健，成人･高齢者保健，精神保健，難病対策，感染症対策，健康づくりの事業，健康危機管理，障害者福祉についてその概要と法的根拠を説明する」「１．２）①健康課題の抱えた住民が，その地域で生活を継続できるためのケアシステムの必要性を説明する」「１．１）①地域とは何か自分の言葉で表現する」であった．

2020年の学習到達度の上位10位は，平均値が高い順から「１．１）⑥地域の健康課題と結び付けて，保健師活動のPDCAサイクルを展開図に記入する」，「１．１）④実習地域の人口構成や自然環境･社会･経済･文化など地域の特徴をアセスメントする」，「２．１）②保健所と市町村の役割と機能について説明する」，「２．１）①保健所と市町村のそれぞれの組織を説明する」，「１．１）②情報収集の方法と情報の根拠を説明する」，「１．１）③住民の保健行動を支える地域の資源についてアセスメントする」，「１．１）①地域とは何か自分の言葉で表現する」，「２．１）③保健所と市町村の連携について説明する」，「４．地域組織・グループ育成２）②地域組

表５　公衆衛生看護学実習に対する学習意欲

項目	年	非常にそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	*P*値
1. 実習期間が３週間では足りない	2018年・2019年	2（1.4%）	13（9.4%）	95（68.3%）	28（20.1%）	0.400
	2020年	4（5.2%）	6（7.8%）	54（70.1%）	13（16.9%）	
2. 公衆衛生看護学実習は楽しかった	2018年・2019年	53（38.1%）	71（51.1%）	12（8.6%）	2（1.4%）	0.704
	2020年	25（32.5%）	41（53.2%）	10（13.0%）	1（1.3%）	
3. 公衆衛生看護学実習で学んだことは今後の看護実践に役立つ	2018年・2019年	81（58.3%）	52（37.4%）	5（3.6%）	0（0.0%）	0.410
	2020年	38（49.4%）	36（46.8%）	3（3.9%）	0（0.0%）	
4. 公衆衛生看護学実習に関する知識に対して自信がついた	2018年・2019年	27（19.4%）	100（71.9%）	10（7.2%）	1（0.7%）	0.407
	2020年	9（11.7%）	61（79.2%）	7（9.1%）	0（0.0%）	
5. 公衆衛生看護学実習を主体的に取り組めた	2018年・2019年	64（46.0%）	72（51.8%）	2（1.4%）	0（0.0%）	0.199
	2020年	30（39.0%）	43（55.8%）	4（5.2%）	0（0.0%）	
6. 公衆衛生看護学実習で保健師から十分に関わってもらえた	2018年・2019年	80（57.6%）	54（38.8%）	3（2.2%）	0（0.0%）	$P<0.001$***
	2020年	39（50.6%）	25（32.5%）	13（16.9%）	0（0.0%）	
7. 公衆衛生看護学実習で保健師から魅力のある話を聞くことが出来た	2018年・2019年	62（44.6%）	61（43.9%）	14（10.1%）	0（0.0%）	0.126
	2020年	46（59.7%）	25（32.5%）	6（7.8%）	0（0.0%）	
8. 公衆衛生看護学実習で自分にとってモデルとなる保健師との出会いがあった	2018年・2019年	40（28.8%）	76（54.7%）	21（15.1%）	2（1.4%）	0.596
	2020年	28（36.4%）	36（46.8%）	11（14.3%）	2（2.6%）	
9. 公衆衛生看護学実習で保健師に興味が増し，親近感を持てた	2018年・2019年	65（46.8%）	64（46.0%）	9（6.5%）	1（0.7%）	0.664
	2020年	34（44.2%）	40（51.9%）	3（3.9%）	0（0.0%）	

無回答を除く　χ^2test　*** $P<0.001$

表6　実習後の学習到達得点と学習到達度

学習目標大項目	学習目標項目	2018年・2019年 (n=140)	2020年 (n=77)	*P*値	2018年・2019年学習到達度	2020年学習到達度
1．公衆衛生看護活動の展開プロセス	1)①地域とは何か自分の言葉で表現する	4.23±0.77	4.34±0.82	0.33	88.24%	85.71%
	②情報収集の方法と情報の根拠を説明する	4.38±0.63	4.32±0.73	0.60	93.38%	87.01%
	③住民の保健行動を支える地域の資源についてアセスメントする	4.18±0.57	4.25±0.67	0.42	91.18%	87.01%
	④実習地域の人口構成や自然環境・社会・経済・文化など地域の特徴をアセスメントする	4.29±0.65	4.45±0.72	0.84	91.91%	89.61%
	⑤地域住民の健康に関する情報を経時的に集積しアセスメントする	4.06±0.72	4.04±0.79	0.85	85.29%	83.12%
	⑥地域の健康課題と結び付けて，保健師活動のPDCAサイクルを展開図に記入する	4.65±0.51	4.66±0.60	0.92	98.53%	93.51%
	2)①健康課題の抱えた住民が，その地域で生活を継続できるためのケアシステムの必要性を説明する	4.25±0.70	4.16±0.84	0.38	88.24%	83.12%
	②地域ケアシステムの構築のために保健，医療，福祉，介護等の関係機関や住民組織，ボランティア等との連携および調整を図りながら協働することを説明する	4.35±0.66	4.25±0.86	0.32	92.65%	83.12%
2．保健所と市町村の役割と機能	1)①保健所と市町村のそれぞれの組織を説明する	4.51±0.60	4.45±0.75	0.57	94.85%	87.01%
	②保健所と市町村の役割と機能について説明する	4.57±0.62	4.47±0.74	0.30	94.85%	88.31%
	③保健所と市町村の連携について説明する	4.40±0.66	4.31±0.82	0.39	92.65%	85.71%
3．保健事業や疾病対策の実際	1)①母子保健，成人・高齢者保健，精神保健，難病対策，感染症対策，健康づくりの事業，健康危機管理，障害者福祉についてその概要と法的根拠を説明する	4.23±0.70	3.92±0.96	0.08	88.24%	76.62%
	②各保健事業及び保健活動の実施計画（年度計画など）や具体的方法（対象者，内容，担当者，会場，実施回数，募集方法など）について記述する	4.37±0.71	4.06±1.04	<0.05*	90.44%	79.22%
	③生活習慣生活習慣病等の疾病予防や重症化を予防する保健事業および保健活動を説明する	4.28±0.70	4.12±0.89	0.14	89.71%	84.42%
	④健康危機（感染症・虐待・災害等）への管理体制や予防活動を説明する	4.23±0.69	4.17±0.82	0.57	87.50%	79.22%
	⑤参加した各保健事業及び保健活動を通じて，ソーシャルキャピタルの醸成やその核となる人材の育成について説明する	3.79±0.85	3.65±0.98	0.29	71.32%	67.53%
	2)①参加した各保健事業及び保健活動の目的・目標を説明する	4.66±0.55	4.12±0.96	<0.001***	97.06%	76.62%
	②参加した各保健事業及び保健活動の実施内容について説明する	4.77±0.47	4.21±0.95	<0.001***	98.53%	77.92%
	③参加した各保健事業及び保健活動の目的・目標をふまえて，評価の視点を説明する	4.56±0.54	3.94±0.95	<0.001***	98.53%	71.43%
4．保健師活動 家庭訪問	1)①家庭訪問の法的根拠を説明する	4.58±0.66	3.68±1.20	<0.001***	94.12%	61.04%
	②対象者を把握したプロセスを説明する	4.36±0.67	3.65±1.12	<0.001***	92.65%	59.74%
	③対象者への連絡方法と家庭訪問の約束の仕方について説明する	4.28±0.74	3.51±1.14	<0.001***	89.71%	58.44%
	④家庭訪問のための交通手段や訪問時間の設定，服装の選択をする	4.65±0.60	3.69±1.22	<0.001***	97.06%	62.34%
	2)①記録や保健師による説明から，地域の支援経過を把握する	4.37±0.69	3.88±1.05	<0.001***	93.38%	71.43%
	②家庭訪問の目的を説明する	4.58±0.56	3.88±1.12	<0.001***	97.06%	70.13%
	③家庭訪問に必要な情報を収集する	4.36±0.66	3.60±1.15	<0.001***	93.38%	61.04%
	④対象やその家族の健康課題とニーズをアセスメントする	4.40±0.61	3.78±1.06	<0.001***	94.12%	68.83%
	⑤訪問計画を立てる	4.07±0.64	3.14±1.10	<0.001***	88.24%	42.86%
	⑥家庭訪問の評価方法を説明する	4.20±0.68	3.27±1.17	<0.001***	89.71%	48.05%
	3)①家族関係，生活環境に関する保健師の観察の視点を説明する	4.39±0.62	3.95±0.90	<0.001***	93.38%	77.92%
	②日常生活の場における保健師の支援方法を理解する	4.39±0.60	4.03±0.89	<0.001***	94.85%	80.52%
	③関係機関との連携の方法や社会資源の活用の方法について説明する	4.19±0.68	4.04±0.90	0.17	88.24%	77.92%
	④家庭訪問した事例と保健施策の関係を説明する	4.18±0.70	3.44±1.24	<0.001***	88.24%	54.55%
	4)①家庭訪問記録用紙（様式3・4）に的確に記載する	4.53±0.68	2.91±1.41	<0.001***	94.85%	38.96%
	②家庭訪問の記録の目的，各種記録用紙の形式（記入項目），閲覧者，管理方法（保管場所，保管の仕方，保管期間，訪問記録の活用方法等）について説明する	4.52±0.67	3.32±1.35	<0.001***	94.12%	53.25%
健康相談・健康教育	1)①健康相談及び健康教育の法的根拠を説明する	4.56±0.63	4.06±1.00	<0.001***	94.85%	79.22%
	②参加した健康相談・健康教育の目的，対象，内容（相談・教育内容，担当者の職種と人数，会場，配布資料の活用，年間実施回数，予算など）を説明する	4.50±0.65	3.78±1.17	<0.001***	94.85%	64.94%
	③対象者の把握方法を説明する	4.29±0.63	3.99±1.17	<0.05*	94.12%	74.03%
	2)①対象者のニーズを明らかにする	4.42±0.61	4.13±0.91	<0.01**	94.12%	79.22%
	②目標にそった方法，技術を選択する	4.18±0.60	3.96±0.90	<0.05*	91.18%	77.92%
	③関係機関などへの紹介や連携について説明する	4.22±0.65	4.13±0.91	0.41	91.18%	81.82%
	④健康相談・健康教育の記録の目的，記録用紙の形式（記入項目），閲覧者，管理方法について説明する	4.33±0.64	3.69±1.14	<0.001***	94.12%	63.64%
	3)①健康相談・健康教育の評価方法を説明する	4.33±0.70	3.96±0.95	<0.01**	88.97%	77.92%
	②健康教育が目指す地域への効果について説明する	4.31±0.64	4.21±0.85	0.30	92.65%	85.71%
地域組織・グループ育成	1)①参加した地域組織・グループ活動の目的を説明する	4.53±0.58	3.79±1.21	<0.001***	96.32%	67.53%
	②組織・グループの構成やメンバーの特徴について説明する	4.47±0.65	3.94±1.02	<0.001***	93.38%	71.43%
	③活動の経緯や今後の方向性の説明を受け，理解する	4.50±0.63	4.00±0.97	<0.001***	93.38%	74.03%
	2)①地域組織・グループ活動の中で住民の主体性を引き出す保健師の関わりや支援について説明する	4.49±0.58	4.13±0.97	<0.01**	97.79%	80.52%
	②地域組織・グループ活動の中での保健師と他の専門職との関わりについて説明する	4.40±0.60	4.25±0.89	0.13	94.85%	85.71%
	③関係機関や地域組織との電話・窓口対応の見学や会議への参加を通して，連携・協働に向けた保健師の連携・調整の実際を理解できる	4.34±0.66	3.99±1.05	<0.01**	93.38%	72.73%
5．看護学の各分野の理論の統合と地域看護学の実践	1)①基礎看護学，小児看護学，母性看護学，成人看護学，精神看護学，老年看護学，在宅看護学，公衆衛生看護学の理論や知識を統合して対象の理解，健康課題への対応方法，保健師の関わりを説明する	4.34±0.69	4.13±0.95	0.07	91.18%	79.22%
	2)①保健師が行う看護研究の実際を理解する	3.70±0.91	3.12±1.19	<0.001***	64.71%	48.05%
	②公衆衛生看護学の発展や保健師活動の質の向上を目的として，看護研究と保健師活動のつながりを説明する	3.91±0.83	3.43±1.15	<0.01**	76.47%	61.04%
	各項目の学習到達度が8割以上の項目数	50	17			
	各項目の学習到達度が6割未満の項目数	0	8			

無回答を除く．　t検定　*$P<0.05$，** $P<0.01$，*** $P<0.001$

織・グループ活動の中での保健師と他の専門職との関わりについて説明する」,「４．健康教育・健康相談３）②健康教育が目指す地域への効果について説明する」であった．下位10位は，平均値の低い順に，「４．家庭訪問４）①家庭訪問記録用紙に的確に記載する」「４．家庭訪問２）⑤訪問計画を立てる」「５．２）①保健師が行う看護研究の実際を理解する」「４．家庭訪問２）⑥家庭訪問の評価方法を説明する」「４．４）家庭訪問②家庭訪問の記録の目的，各種記録用紙の形式（記入項目），閲覧者，管理方法（保管場所，保管の仕方，保管期間，訪問記録の活用方法等）について説明する」「４．家庭訪問３）④家庭訪問した事例と保健施策の関係を説明する」「４．家庭訪問１）③対象者への連絡方法と家庭訪問の約束の仕方について説明する」「４．家庭訪問１)②対象者を把握したプロセスを説明する」「５．２）②公衆衛生看護学の発展や保健師活動の質の向上を目的として，看護研究と保健師活動のつながりを説明する」「４．家庭訪問２）③家庭訪問に必要な情報を収集する」「４．家庭訪問１）①家庭訪問の法的根拠を説明する」であった．

各項目の学習到達度が８割以上であったのは2018年，2019年は53項目中50項目（94.3％），2020年17項目（32.1％），各項目の学習到達度が６割未満であったのは2018年，2019年は０項目，2020年は８項目（15.1％）であった．

Ⅳ．考　察

１．実習に対する印象及び学習意欲

公衆衛生看護学実習に対する学習意欲の回答割合において，実習で保健師から十分関わってもらえたという印象で2020年が有意に低かった．これは，臨地実習期間の短縮に伴い，保健師から直接指導を受ける機会の減少に伴う結果であると考えられた．学生が実習において，保健師から関わってもらえたという主観は，双方向のコミュニケーションによるオンライン実習においても限界があることも示唆された．

ただし，公衆衛生看護学実習に対する学習意欲，及び保健師活動への印象については，2018年・2019年と比較して2020年が顕著に低下することはなかった．この背景には，オンライン実習において，県の統括保健師をはじめ，保健所保健師，市町村保健師，養護教諭，産業保健師による系統立てられた講義を聞くことで，保健師活動の理解を深化させ，実習に対して肯定的な印象を持ったことが影響しているのではないかと考える．また，オンライン実習における保健師の講義には「保健所におけるCOVID-19対策の実際」「COVID-19の影響にある市町村保健活動の実際」などが含まれた．現在の公衆衛生学上，重大な健康課題について，臨場感のある保健師活動の実際を学べたことで，学習意欲の保持につながったことも推察される．

２．学習目標到達度から見た臨地実習の意義

2020年の学習到達得点平均値の上位には，学習目標大項目５項目のうち「１．公衆衛生看護活動のプロセス」「２．保健所と市町村の役割と機能」の項目が複数含まれた．オンライン実習や課題学習など臨地に赴かない学習において，地域の概況の把握，地域診断を含めた公衆衛生看護活動を展開図に記述させること，保健所と市町村の役割機能を学ぶことは一定の成果があることが示唆された．

しかし一方で，2020年の学習到達得点平均値の下位には，家庭訪問，看護学の各分野の理論の統合と地域看護学の実践が含まれた．さらに2018年・2019年は学習到達度が８割を超えた項目が53項目中９割以上であったが，2020年は３割にとどまった．また，2018年・2019年には６割未満の項目は認めなかったが，2020年は15％の項目が該当した．学習到達得点平均値の下位，学習到達度６割未満に該当した項目には，家庭訪問技術における訪問計画，評価，記録の仕方や保健師が行う看護研究の実際等が含まれた．保健師が行う看護研究の実際を学ぶことについては，これまで明らかになっていた課題であったが，2020年はさらに深刻な到達度となった．宮崎ら[10]は，臨地実習における指導者の役割として，家庭訪問実施時には，学生が把握した対象の現状を確認し，その情報をもとにどのように理解したかという判断を把握すること，対象のニーズを踏まえた関わりの方針を共有することで，教育的効果を学生に及ぼすことを示している．2020年度，COVID-19の影響下にあった実習では，対象への訪問機会の減少に伴い，指導者と学生との教育的関わりの機会が減少していた．

本研究結果より，オンラインを利用した2020年度の実習では対象のニーズに沿った家庭訪問の実施，事業や活動を通じて地域における人材育成を学ぶこ

と，保健師が行う看護研究と保健師活動の関連を学ぶこと等の技術の獲得が困難であったことが示された．そしてこれらの技術は，臨地実習においてこそ習得できる学習内容であり，臨地実習における，実習指導者と教員による教育的な関わりを連動させることによって，学習到達度の向上に資することが示唆された．今後もCOVID-19の影響下において，臨地実習の短縮などの可能性も否定できない．その場合には学内の実習における教育方法の工夫が必要である．例えば家庭訪問については，視聴覚教材やペーパー上の事例などを用いて，対象の把握や訪問計画を立てること，家庭訪問記録への記入の経験を確実にすることが必要である．また，事業や活動を通じた地域における人材育成については，地域の活動展開事例をもとに，ソーシャルキャピタルの概念と実践を統合させることが必要である．看護研究と保健師活動の関連については，保健師が行った研究論文等を精読しながら，保健師が活動の実践知をどのようにエビデンスとして構築したかという視点で学生同士がディスカッションすることなどが挙げられる．

2020年はCOVID-19の影響下での実習となり，学生にとって臨地実習における十分学習の機会を得ることが困難であった．しかしながら卒業後は，これまでの卒業生と同様の保健師としての役割を地域社会に求められる．本研究において，2018年・2019年と比較して2020年の学習到達得点が低かった家庭訪問，保健事業及び保健活動，健康相談・健康教育，地域組織・グループ育成の技術については，卒後に公衆衛生看護実践力として獲得していけるよう支援する必要がある．この実践力の向上のために，看護基礎教育と卒後教育の有機的な連携のもと，卒後に対する不安，卒後の看護実践の実態と現任教育の現状も踏まえ，保健師としてのアイデンティティを確立できる保健師新任期教育の体制のあり方を探究し確立していくことが今後の課題である．

研究の限界として，本研究において2020年度はオンライン実習のみの学生，保健所で実習した学生と市町村で実習した学生のパターンがあるが，全ての学生のデータを分析したため，オンライン実習と臨地実習，実習施設による学習到達度の違いを示すことができていない．

Ⅴ．結　論

本研究では，COVID-19の影響下で実施した実習の成果および課題を明らかにすることを目的とし，2018年～2020年に公衆衛生看護学実習を履修した学生に調査を実施した結果，実習において保健師から十分関わってもらったという主観はCOVID-19影響前に比べて有意に低かった．また，学習到達度も53項目中32項目でCOVID-19影響前より低かった．学習到達度の低かった家庭訪問，保健事業，地域組織・グループ育成等の技術は，実習でこそ学べる技術であることが明確となったが，COVID-19影響下で実習を行った2020年の学生については，これらの技術を獲得できるよう，看護基礎教育と卒後教育の有機的な連携のもと，保健師新任期教育の体制を確立する必要がある．

引用文献

1）磯村聰子，守田孝恵，斎藤美矢子，木嶋彩乃．公衆衛生看護学実習による学習効果と課題．山口医学　2020；69（1）：57-66.

2）COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果のご報告．一般社団法人　日本看護系大学協議会．https://www.janpu.or.jp/2020/12/11/17860/（参照2021-03-01）

3）菅原啓太，上田貴子，小池　敦，他．新型コロナウイルス感染症状況下での臨地実習の実施状況および今後の課題－公立大学協会看護保健医療部会による調査結果から（第２報）－．三重県立看護大学紀要　2020：35-42.

4）相撲佐希子，石井成郎，春田佳代，他．コロナ禍におけるオンラインを活用した新しい看護実習方法の提案．日本教育工学会　研究報告書 2020：7-14.

5）実藤基子．コロナ禍における基礎看護学実習の新たな実施方法と実習目的の達成．キャリアと看護研究　2020；10（1）：14-20.

6）新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について（周知）．文部科学省高等教育局医学教育課 https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf（参照2021-03-

01）
7）長谷川孝子．日本語学習者のモチベーションに関する意識調査－L2モチベーション研究のためのパイロットスタディー．立教日本語教育実践学会 2016；3：116-126.
8）看護教育の内容と方法に関する検討会 第一次報告．厚生労働省．https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000w9a0-att/2r9852000000w9bh.pdf（参照2021-03-01）
9）「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」について（医政看発第 0919001号）．厚生労働省．http://www.hospital.or.jp/pdf/15_20080919_01.pdf.（参照2021-03-01）
10）宮崎美砂子，山岸春江，平山朝子．臨地実習における教員と現地指導者の役割明確化のための一事例分析．千葉大学 看護学部紀要 1997；19：155-161.

Learning Outcomes of Public Health Nursing Practice Using Online Conducted under the Influence of COVID-19

Satoko ISOMURA, Takae MORITA,
Miyako SAITO and Yurika MURAKAMI

Community/Gerontological Nursing, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 1-1-1 Minami Kogushi, Ube, Yamaguchi 755-8505, Japan

SUMMARY

This study aimed to clarify outcome of the public health nursing practice conducted under the influence of COVID-19. A self-administered anonymous questionnaire survey was performed for 4th grader students at University from 2018 through 2020. The investigation items consisted of basic attributes, impression of public health nurse activity, learning motivation and learning target items. We compared shortened clinical practice and online practice enforced in 2020 and before. For 217 effective answers, "A public health nurse was involved in practice sufficiently" was significantly low. In top learning achievement scores of 2020 included many of the items from the the learning target "Process of public health nursing activity" and "Role and function of public health center and municipalities. In 2018 and 2019, learning achievement degrees were over 80% in 94.3% of 53 items while on the other hand it was only 32.1% in 2020. Learning achievement degrees were less than 60% in no items in 2018 and 2019 while it was 15.1% in 2020. For the techniques of health service and health practice for which the learning achievement degree were low in 2020, it is necessary to support students so that they can acquire them as a public health nursing practice ability.